

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	後藤 敦子 【比較社会文化学専攻 平成27年度生】	要 旨
論文題目	11-12世紀イラクにおける二つの王権と社会： スルタンとカリフ	本論文は、11-12世紀のイラク社会におけるセルジューク朝（1038-1194）スルタンとアッバース朝（750-1258）の二つの王権が並び立つ状況について、アラビア語およびペルシア語の史料をもとに、王権にかかわる儀礼と権限、王権を支える軍事的基盤、王位継承問題の詳細を明らかにし、二つの王権が並立するスルタンとカリフの二重権力体制が成立したプロセスとその実態を検討する。
審査委員	(主査) 教授 三浦 徹	スルタンはカリフから委任状（アフド）を得ることによって支配権を承認され、カリフは、スルタンからのバイア（忠誠の誓い）を受けることによって地位を保ち、その儀礼は定式化され、金品の下賜や返礼が行われた。両者の間では、婚姻関係も結ばれ、スルタンからカリフへの婚資金は、財源としても重要であった（第1章）。
	教授 新井 由紀夫	カリフが保持していた4つの権限—フトバ（集団礼拝における説教）、ラカブ（称号）授与、スィッカ（貨幣鑄造権）、ナウバ（礼拝を知らせる楽器演奏）—が、スルタンに授与され、これによってスルタンの支配権が確認され、民衆にも告知された。スルタンとカリフ はともに、宗教行事・実践を保護し、住民の生活と安全を政治的に保障した。（第2章）。
	教授 古瀬 奈津子	スルタンによって任命されたバグダードのシフナ職が、スルタンの代理として、治安維持とともに、カリフとの折衝等の役割を果たし、また、アラブ遊牧部族マズヤド族などの在地勢力をアミール（軍指揮官）に登用することによって、地方統治を堅固なものとした（第3章）。
	准教授 戸川 貴行	他方、セルジューク朝では、領土は王族間での遊牧分封制がとられ、またスルタン位について、継承の原則がないため、スルタン位をめぐる兄弟やオジ甥の間での対立・抗争が生じ、そこではカリフによる承認が意味をもった。スルタン・ムハンマドの死後（1118年）、セルジューク朝は東西に分裂し、やがて深刻な内部対立によって崩壊する（第4章）。
	助授 阿部 尚史	以上から、カリフはスルタンからバイアをうけることでウンマ（ムスリム共同体）の長としての地位を保ち、スルタンはカリフからの委任をうけることで支配を正当化された。カリフという存在はマムルーク朝やオスマン朝にも形を変えて引き継がれ、11-12世紀のスルタン・カリフ並立体制は、カリフ制からスルタンによる軍人支配体制への移行期と位置づけられる。